

高等学校 令和5年度（1学年用）

教科

家庭

科目

家庭総合

教科： 家庭 科目： 家庭総合 単位数： 2 単位
 対象学年組：第 1 学年 1 組～ 7 組
 教科担当者： (1組：田村・八木) (2組：八木・山本) (3組：八木・山本) (4組：八木・山本) (5組：田村・八木) (6組：八木・山本) (7組：馬場・八木)
 使用教科書： (教育図書 未来へつなぐ 家庭総合 365)
 使用教材： (なし)
 科目の目標

- 【知識及び技能】 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決が主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

【知識・技能】 全体の3分の1	【思考・判断・表現】 全体の3分の1	【主体的に学習に取り組む態度】 全体の3分の1
①確認テスト 50% ②授業プリント 30% ③授業内での発言・発表等 20%	①確認テスト 40% ②プリントの記述 40% ③実習の振り返り 20%	学習に取り組む状況・振り返りの状況 100%

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード (指導項目・内容)	知	思	態	評価の方法	実績(実施日)							配 当 時 間	評 価
								1 組	2 組	3 組	4 組	5 組	6 組	7 組		
1 学 期	4	ガイダンス・衣生活の基礎知識 ・授業の決まりを知る。 ・衣生活に関する基礎的な知識と技術を生活文化、生活科学の二つの視点から学習する。	・学習内容と授業の受け方、授業ルールを知り、目標を立てる。 ・被服の管理について理解し、生活に活かす。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度								6	
	5	衣服の材料・衣服の構成 ・繊維→糸→布→服になるまでの過程を理解する。また、小中学校で体得した裁縫の基礎技術を復習し、知識と技術を身に付け、実生活で活かせるように指導する。	・衣生活に関する知識を得る。 ・着用について、衣類に使用される繊維の種類、糸や布の成り立ちなどを学習する。服がどのように構成されているかを知り、簡単な修繕を行えるように理解する。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度 ・作品の出来ばえ								8	
	6	基礎技術 ・小中学校で体得した裁縫の基礎技術を復習し、知識と技術を身に付け、実生活で活かせるように指導する。	・エプロン製作のため、基礎縫いの技術を学習する。 ・玉結び、玉留め、まつり縫いの方法を復習しながら、基礎縫い技術として習得する。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度 ・作品の出来ばえ ・確認テスト								8	
	7	基礎技術・エプロン製作 ・小中学校で体得した裁縫の基礎技術を復習し、知識と技術を身に付け、実生活で活かせるようにな指導する。	・基礎縫い技術を活かして、エプロン製作を行う。 ・裾のまつり縫いをする。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度 ・作品の出来ばえ								6	
	9	刺し子の基礎縫い ・日本の伝統的手法である刺し子を通して、針と糸に慣れる。また、ハサミなどの道具の扱い方を正しく身につける。 ・自分の力で仕上げる達成感を感じさせ、他のことにも応用できるようにする。	・刺し子に関する技術を理解し、縫うことができる。	○	○	○	・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度 ・作品の出来ばえ								8	
2 学 期	10	刺し子の基礎縫い ・日本の伝統的手法である刺し子を通して、針と糸に慣れる。また、ハサミなどの道具の扱い方を正しく身につける。 ・自分の力で仕上げる達成感を感じさせ、他のことにも応用できるようにする。	・エプロンにプリントしてある、刺し子のしるし通りにきれいに縫うことができる。 ・刺し子の図案をしるしつけし、きれいに縫うことができる。	○	○	○	・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度 ・作品の出来ばえ								8	
	11	刺し子の基礎縫い(完成) ・日本の伝統的手法である刺し子を通して、針と糸に慣れる。また、ハサミなどの道具の扱い方を正しく身につける。 ・自分の力で仕上げる達成感を感じさせ、他のことにも応用できるようにする。	・粘り強く作品を仕上げ、手作業で集中力、根気を養う。 ・作品完成の達成感を持つ。	○	○	○	・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度 ・作品の出来ばえ								8	
	12	日本の食文化理解 ・日本の食文化について理解を深め、日常生活における実践への意欲を高める。	・日本の伝統的な食文化、おせち料理について知識を得る。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度								8	
3 学 期	1	調理に関する基礎知識 ・調理実習を実施する上で、調理に関する基礎知識を理解することができる。	・調理に関する基礎知識を理解する。 ・衛生・調理の目的を理解する。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度								6	
	2	調理実習 ・製作したエプロンを着用して、調理実習を実施する。作業手順を理解し、要領よく調理できる。先のことを考えて行動できる態度を養う。 ・食材の特長について、実習で取り上げる ねらいを理解する。	・実習に使用する材料の特性を理解することができる。 ・包丁や火加減、計量方法など調理の基本を体得する。 ・調理実習では食べるだけでなく、作り方やその理論について理解することができる。片付けも適切にすることができる。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・確認テスト								6	
	3	テーブルマナーの基本知識 ・テーブルマナーについては、DVD鑑賞やワークシートを使って学習し、実生活で困らない態度を養う。	・テーブルマナーを知り、生活の中で活かせるように理解する。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度								6	

教科・科目・講座等	家庭科 子どもの発達と保育	単位	3学年 自由選択 2単位
教科書・副教材等	子どもの発達と保育 (実教出版)	教科担当	田村

学習の到達目標	保育の基礎的な知識と技能が身につく。
---------	--------------------

学期	月	学習内容	進捗状況	アキルスタンダード	評価	学習のねらい	評価の観点	配当時間
			自由選択者					
一学期	4	ガイダンス		<ul style="list-style-type: none"> 学習内容と授業の受け方、授業ルールを知り、目標を立てる。 基礎的な乳幼児の体の特徴を習得する。 集団保育の方法と子どもの成長に与える影響を考えることができる。 子ども同士の人間関係を作るうえで大人がどのように接していけばよいか理解することができる。 伝承遊びを知り、日本文化の理解を深めることができる。 四季の行事をカレンダーや模造紙に表現することができる。(折り紙や色鉛筆などを使用し製作する) 	A	保育士・幼稚園教諭を目指すうえで必要なことを学習する。 乳幼児の体の発達過程を理解する。 「子どもにもわかりやすい工夫をする」とはどのようなことか「表現」に重点を置いて身につける。 進学先で役に立つことも取り入れながら2年次の家庭総合での学習内容の理解度をさらに深めていく。	<ul style="list-style-type: none"> 確認テスト 乳幼児の発達段階を理解したか。 集団保育の基本を知ることができたか。 製作作品を仕上げ提出したか。 *学習未到達生徒 課題提出 個別指導 	28
	5	乳児の体の発達 ・新生児の健康 ・乳児の健康						
	6	集団保育の基本 ・集団保育と子どもの成長 ・社会性の発達						
	7	遊びと発育 ・伝承遊びの技術 ・季節と遊び						
二学期	9	児童文化財 ・児童文化財とは ・児童文化財の製作		<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達に応じた児童文化財を考えることができる。 3歳から6歳児向け、適切に遊ぶことができる児童文化財を製作できる。(ボランティアに行ったときに子どもにあげるメダルづくりも含む) 子どもが生活するうえで必要な衣生活の知識を理解することができる。(子どもの衣類実習) 母乳栄養、離乳食、幼児食に至るまでの与え方の注意点や適切な食事内容について理解し、実習することができる。 		ボランティアに行ったときに子どもと遊ぶことを想定して児童文化財を製作することができる。また、子どもが楽しむ工夫を考え、適切に遊ばせる技術を練習する。 子どもの生活上、必要な衣生活・食生活の知識を理解する。 製作や実習を通して知識を身につけさせる。	<製作物の完成度> 児童文化財として適切か。内容は子どもにふさわしいか。子どもが見て、進んでやりたいと思う内容か。がんばったごほうびの与え方は適切か。 <衣生活> 作品は完成したか。 <食生活> 実習を通して子どもの食事や栄養について理解できたか。(レポート)	32
	10							
	11	子どもの生活 ・衣生活						
	12	・食生活						
三学期	1	子どもの福祉 ・子どもを守る法律 (1年のまとめ)		<ul style="list-style-type: none"> 子どもを守る法律について理解する。 支援方法などの理解も深める。 1年間の復習をして、学習内容を定着させる。 		子どもについての法律、母体保護の法律などについて理解する。支援や保護についても知ることができ、適切に場合わけできる。	・年間を通して、保育について理解できたか。将来、保育者になったときに活かせるように知識が定着したか。	18
	2							
	3							

学習評価については、【授業の取組、発表・作品】：【授業プリント・学習カード】：【確認テスト得点】を5：4：1の割合で評価する。

*評価：A (十分に達成できた)、B (おおむね達成できた)、C (不十分であるが達成できた)、D (達成できなかった)